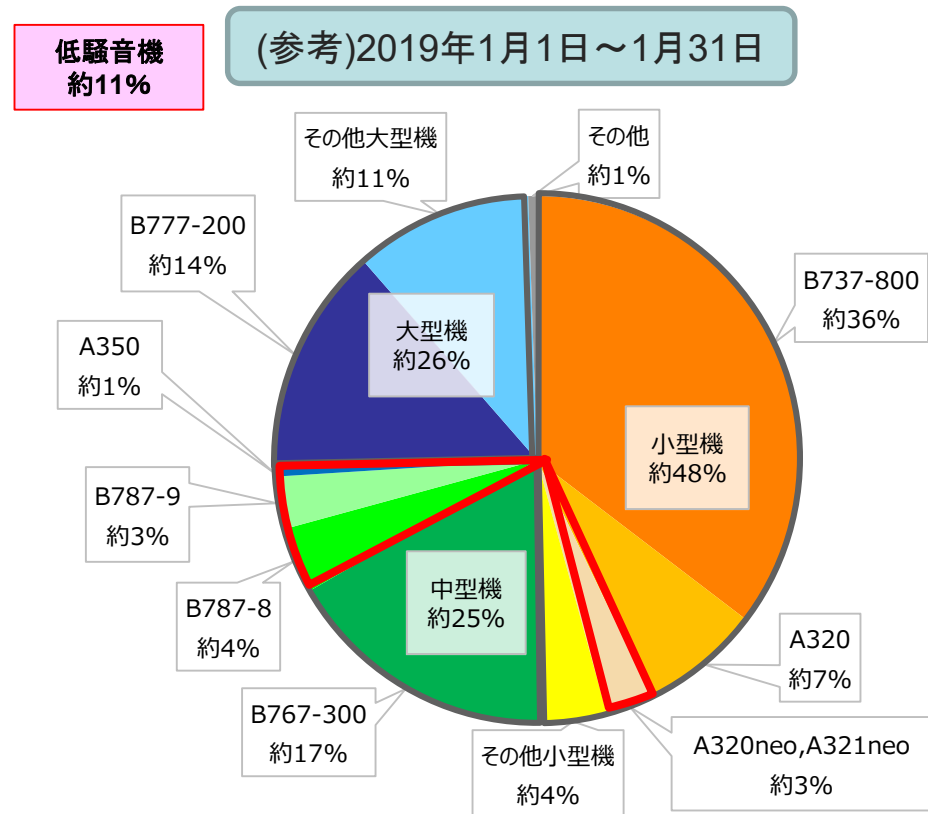
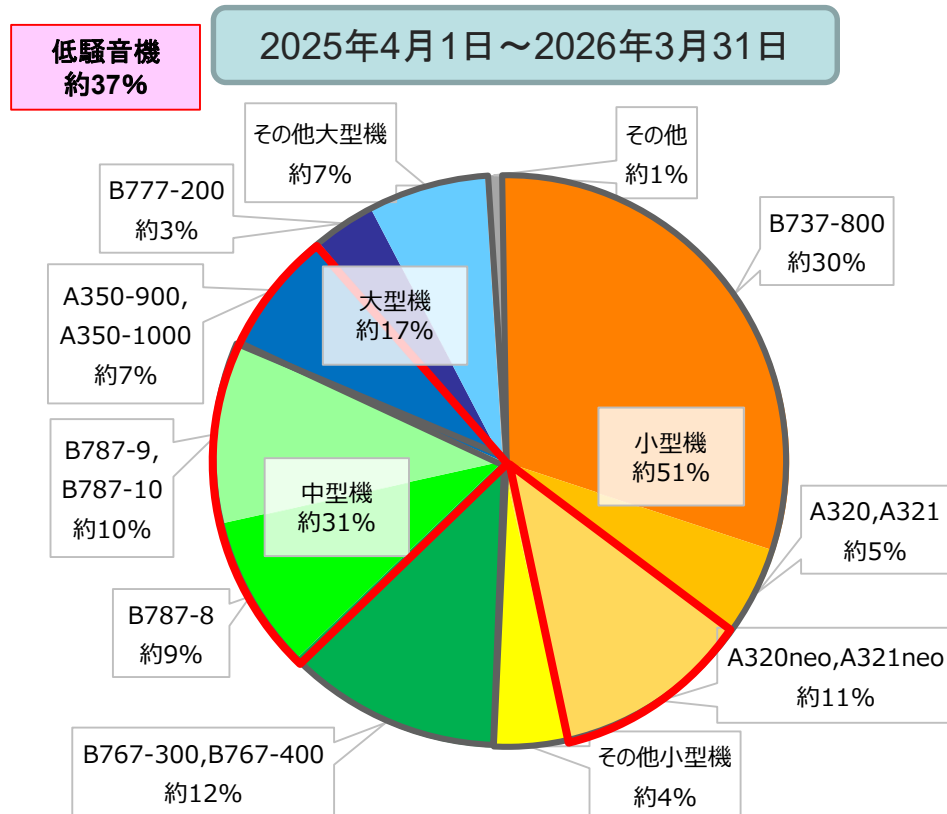


羽田空港就航機種割合(2025年4月1日～2026年3月31日実績)

- 2025年4月1日から2026年3月31日までにおいて、羽田空港を離着陸した航空機の機種毎の割合は、小型機が全体の約51%、中型機が約31%、大型機が約17%であった。
- 羽田空港の国際線着陸料について、航空機の重量に加え、騒音の要素も組み合わせた料金体系へ見直すとともに、羽田空港に就航している航空会社に対して、航空需要を踏まえつつ可能な範囲で騒音の小さな機材を選択することを要請するなど、低騒音機の導入を促進してきた。
- なお、大手国内航空会社においては、事業構造改革の一環として、保有機材を見直し、B777(大型機)を中心に退役させる計画を公表している。
- 上記期間において、低騒音機(B787やA350等)の割合は約37%であり、2019年1月と比較して約26ポイント増加している。



(※)ヘリコプターを除いて集計しております。

(※)構成比の数値は、端数処理の都合上、個々の集計値の合計が100%とならない場合があります。